

カリスマ派キリスト教における「信仰心」

——西アフリカ、トーゴの事例から——

平成 17 年度入
派遣先国：トーゴ共和国
宮田 寛章

キーワード：カリスマ派キリスト教、信仰心、呪術的实践、牧師のカリスマ性、トーゴ

対象とする問題の概要

カリスマ派キリスト教は、神や聖霊による癒しや奇跡を強調するキリスト教の一派である。カリスマ派においては、人びとに振りかかる不幸や災難は悪魔の使いである悪霊の所業が原因であり、これら悪霊をキリスト教の三位の一つである聖霊の働きによって駆逐することで、日常生活における成功や繁栄をえることが教義や実践の中心におかれる。

西アフリカでは 1980 年代以降、主にナイジェリアやガーナを中心としてカリスマ派の活動が増えはじめ、近年では他のギニア湾沿岸諸国においても信者が激増している。トーゴでは、1978 年より前大統領エヤデマが推し進めたアフリカの伝統や真正性を重視する文化政策の一環で、カトリックなど一部の教派を除き多くの新興キリスト教諸派の活動が禁止されてきた。しかし、1991 年に宗教活動の自由が保障されて以降、カリスマ派教会や、カトリックなど既存の教会内部におけるカリスマ派グループの活動が急激に活発になってきている。



図 1: 牧師の手かざしによって悪魔払いを受ける女性

研究目的

カリスマ派教会の説教では、人びとが神や聖霊と直接的に結びつくことにより神の祝福や聖霊のカリスマ（賜物）を受けとることで、人生に幸福と平安がもたらされることが強調される。そのために必要なのが、神という超越的他者への絶対的な帰依、すなわち厚い信仰心であると説かれる。

一方、「信仰心が強いと奇跡が起きる」「信仰心によって病気が治る」といった信者の語りに見られる

ように、信仰心が現世利益を達成するための道具のようなものとして捉えられることも少なくない。ここでは、キリスト教的倫理や道徳を参照して自己の内面の反省をおこなう、西欧キリスト教の宗教観における「個人の内面における信仰」とは異なる意味で「信仰」という語が用いられている。

以上の問題意識から、礼拝の観察と信者への聞き取りにより、カリスマ派キリスト教における「信仰心」あるいは「信仰」とはいかなるものかについて明らかにすることを本研究の目的とした。



図 2: 日曜礼拝で、熱心に聖書を朗読する少年

フィールドから得られた知見について

カリスマ派信者は呪術的ともとれる様々な実践をおこなう。例えば、信者たちは牧師が祈りを捧げた水を身体の不具合のある部分に塗布することで癒しを得ようとする。また、礼拝中に「奇跡が起こる日付」が記された紙が配られることがある。信者の多くはこれを肌身離さず持ち歩きそれに対して祈りを捧げることもある。

さらに、呪物を牧師に物理的に破壊してもらい、悪霊とされる精霊の力を打ち消すことや、牧師の手かざしによって癒しや悪魔払いを簡便に享受することも呪術的と言えなくもない。ここで注目すべきは、神の力の少ない部分が、信者にとって直接的には牧師によって体現されるということ、つまり牧師のカリスマ性である。信者たちは「牧師は神が選んだ人。牧師を通して神の力は働く」、「どこの教会に行こうと信仰心があればいずれ奇跡がおこるが、T 教会ではより早く奇跡が起こる。」と言い、より強力な力を持ち奇跡が起こせる牧師のいる教会へ訪れようとする。「ト占師のところに行ったが何も改善しなかったため、この教会にきた」と言い、癒しや悪魔払いを受けるためだけに教会に来る者も少なくない。牧師自身も「わたしが今日ここで奇跡を起こす」と自己の力の強大さと即効性を強調し、手かざしをおこなう。牧師は信者個人の信仰心が神の祝福を得るために重要であることを説きながらも、一方でより簡便な呪術的方法による神の祝福の享受を信者に提供している。

牧師は「神により多くの犠牲を払った者に対して神はより多くの祝福を与えるだろう」と説き、信者に出来るだけ多くの額の献金を募り、信者もまた出来るだけ多くの金額を供出しようとする。これは信者が金銭を介して物理的に、かつ主体的に神の力を操作しようとする実践ともとれる。また、「1 万フランを犠牲にしたものは明日には 10 万フランを得ることだろう」などと言われ、神の祝福も富などの具体的利益として語られることが多い。



図3: 神の祝福を受けようと懸命に祈る女性

今後の展開・反省点

以上で見てきたのは靈的な力の獲得手段としての「信仰」の姿であり、ここで「信仰心」と呼ばれるものは、具体的な結果を見込んだ期待とそれに基づく一連の行為の総体としてまとめることができるだろう。これらは主体的操作や選択が可能であると同時に一種の賭けに近い行為である。

多くの人びとは日常生活における具体的問題を抱えて教会を訪れる。問題は悪霊が原因であり、これに対抗できるのは唯一聖霊の力であるとされる。従って、こうした善/悪=聖霊/悪霊二元論が聖霊の力を呪術的に獲得する傾向を助長している可能性を指摘できる。今後はこの点について更なる考察を深めていきたい。

また、以上でカリスマ派における「信仰」のすべてを語りつくしたとはいえ、その一側面を明らかにしたにすぎない。実際にカリスマ派の実践は、神という超越的他者との関係の深化から人間中心的な「信仰」を脱する契機をも内包している。この点も今後の課題としたい。



図4: 牧師の指揮のもと一斉に祈る信者たち